

2021年3月12日沖底@網代港地方卸売市場&賀露地方卸売市場、15日沖底@県営境港市場

3月上旬に第一鳥取丸で行ったハタハタ春季調査結果を早く漁師さんに直接お渡ししたいと思い市場調査に行きました。網代に行くと、5隻の入港がありました。市場はホタルイカの山で2,000箱以上のまとまった水揚げがありました。報道関係の方々も朝早くから撮影にいられていました。

積み下ろし作業で大忙しの中、漁師さんが足を止めてくださり、貴重なお話を伺うことが出来ました。ホタルイカの来遊量は、昨年よりも多いのではないかとのこと。赤ガレイの獲れ具合や相場の関係から今はホタルイカに切り替えているようです。また、ホタルイカの漁場も比較的近いため、効率が良いそうです。

ホタルイカ漁は日中行われるため、多くの船が足早に出港されて行きました。



次に賀露に行くと4隻の入港がありました。賀露では様々な種類の魚が水揚げされました。仲買の方(おそらく県外のバイヤーさん)も今は賀露じゃないと魚が買えないのでここに来ているとおっしゃっていました。

賀露では、アカガレイとハタハタ、ソウハチが主体でいずれも1,000箱以上の水揚げがありました。全体的に時期がずれているようで、今年のアカガレイはまだ卵を持つ個体が多く見られました。

ハタハタは2歳魚主体です。ハタハタは通常、日中に底曳き網で獲れるのですが、なんと夜でも獲れるとのこと。どこにでもいるくらいハタハタが多い、ハタハタを避けて操業して

いるとおっしゃっている漁師さんもおられました。このように沢山獲れるのはありがたいことです。そのほか、クロザコエビ（もさえび）、キアンコウ、アカムツ（のどぐろ）、ヒレグロ、ニギス、ヒラメ、スルメイカ、マフグ、エッチュウバイ（白ばい）、エゾボラモドキ（赤ばい）などが獲れていました。



週が代わり、15日は境港市場に行きました。境港では、田後船2隻、境港船2隻の入港がありました。2月に右下写真のように青色の松葉がにを活かして提供して下さった漁師さんにお会いし、かにっこ館に搬入し、活着していることを伝えることが出来ました。

境港では、松葉がにがまだ水揚げされているため、あまり測定ができていないパレット売りの分の測定をメインに行いました。ズワイガニ漁もあと1航海で終了だそうです。色々ありましたが、来漁期も安定供給に向けて、資源状況等しっかりまとめていきたいです。



